

KEN TIMES

2021年 6月号

◆潮湯治。



海に浸かっていると、身体の調子がすこぶる良いのです。筋肉の凝りは解れ、塩の効果か、肌の状態（僕は乾燥肌なので）はその後数日間も良い状態で保たれ…何より精神がリセットされる気がします。この時期は午前2時に起き、野沢を出発、4時から海に入り始めます。日の出前の海の美しさ—それを表現する技量を僕は持ち合わせておりません。何も考えず、ただひたすら空を見上げて海に浮かんでいるのは…なんとも贅沢な時間です。

◆「のびろ」と「北光」

実に親孝行な息子が、こども園のお散歩で「のびろ」を採ってきてくれました。味噌をつけて、一口齧ってはその余韻で地酒を口に含む…。こういうのを、我々人類は「幸せ」と言います。ヨウ、また採ってきてな。



今月のインタビューは、
タイ料理「クアタイ」の
市川良樹君

史さん だぜい。



◆田園チャリ部。

お酒と「少々の」サイクリングを愛する人々からお誘いいただき、飯山駅前「おんと」までペダルを漕いできました。スキー場のシュネーに集合し、朝のコーヒーをいただき…いざ出発です。千曲川を撫でる初夏の風を浴びながら湯滝橋を渡り、お喋りしながら川沿いを走り…(ゆるいサイクリングだな〜笑)田園風景の広がる照里を抜け、長嶺公園経由で到着です。僕は一滴の汗もかかず、一度も息が上がりませんでした。なぜならそれはe-bike(電動アシスト付き自転車)だから。おんとさんと美人女将・絵美さんの美味しい料理をいただき、とても楽しく、気分の良いひと時でした。帰りも、アナログバイクの先輩に「交換しろ」と言われ続けましたが、全て無視。かんがら坂をスイスイと登らせていただきました。夕方には、でんべえさんの素晴らしいお風呂もいただき、それはそれは最高の1日でした。



◆近所の川で。



4月号にインタビューした、同級生の亮一君との話を思い出し、息子と近所の川へ糸を垂らしに行ってきました。何に苦労したかと言うと、「ミミズ探し」です。初めて川へ行く息子には、何とか釣果を与えたいと思いますので、イキの

いいミミズに任せるのです。しかし、探そうとすると、これがまた見つからないものなんですよ。ようやくミミズが取れ始めた頃には、息子の目的はミミズ取りに変わってるわけです。「おいトト〜！キングミミズ、見つけたぞ〜！」なんて言いながら。川では、事前にこっそり良いポイントが無いかと目をつけていたので、すぐに竿がブルブルと震えました。親父としては正直ホッとしますね。見てよ、息子のこの顔！

◆これはいい本だったなあ。

「あんまり考えない方がいい。なるようにしかならないのものです。無理にそうしなくとも、何かになる時は、むこうからやって来るもんです。あなたには、その方がいい」



私はI支配人の顔を見た。支配人は目を細めて、秋にむかう海と空を見ていた—

強く何かを訴えかけてくるというより、静かにゆっくり、そして大きく心を動かしてくれる作品であった気がします。とてもいい本です。

◆高山村の素敵な時間。

こ、これが本物の生ハムか…！ゴールデンウィークにO社長ご夫妻にお誘いいただき、高山村の佐藤さんのところへおじゃまして来ました。眼下にブドウ畑の広がる、天国のようなロケーションで、素晴らしく美味しい（もっと適切な表現がこの世にあれば…）ワインやジビエをいただいて来ました。中でも、特に衝撃だったのは佐藤さんお手製の「生ハム」です。いや、これは生ハムという概念を全くもって変えてしまう「作品」ですね。スライスしている時からブワ〜ッと、しっかり熟成された香りが鼻をつき、口に入れば、ほんの少量でグラス一杯のワインを空にしてしまうほどの威力を持っています。昼から夕陽が落ちるまで、ゆっくりと時の流れを感じながら…本当に素敵な時間です。子ども達も大喜びでした。O社長、Mさん、佐藤さん、おかげさまで最高の連休になりました。間違いなくまた来ます。



◆うちのルッコラ。



家庭菜園なるものを始めてみました。庭の隅の砂利を掘り起こし、そこに妻の実家の畑からもらった土を入れて畑が完成です。とにかく手の掛からないものが一番！ということと、昨年お隣さんにいただいて非常に美味しかったので「ルッコラ」の種を植えました。3日もすると、早くも芽が出てきたことは驚きでした。その後もあつという間に芽が増えたので、まだ小さいうちに間引きしました。自分で育てた（というより植えただけであとはほったらかしです）採れたてのものはやはり格別です。オリーブオイルと醤油を垂らして食べました。とても香り高く、あの程度の労力と費用でできるのは、やけに得した気持ちになれました。いいですよ、ルッコラ。

◆蜜の味。

夕方、まだ明るい時間に息子連れて、泉質が一番好きな「滝の湯」へ入りに行きました。やはり、日が落ちる前に入るお湯は贅沢なものです。特にその日は貸切状態で、心から寛げた



気がします。温まった身体に外の爽やかな空気が気持ち良い帰り道、息子が「トトもこれ吸ってみい？」と、道端の花を手に取り、差し出してきました。子どもの頃に吸った、あの日の蜜の味がしました。

◆あ、みんな元気ですよ～！

毎号、忘れちゃうんですよ。元々は妻のお友達というお客さまが多いので、一枚は載せようと思っているのですが…なかなか撮らないものですね。笑 ですので、いつも取ってつけたような写真ですみませんね。楽しくやっているということは確かですのでご安心を。下の写真は、上二人の子が登園したあと、庭で3番目と日向ぼっこしている時のものです。芝も少しずつ青くなり始め、今、一日の中で心地よいひと時です。



◆こんなに簡単だったとは！

朝、階下から漂う焼き立てパンの香りの中で目覚める喜び…。これは大正解の買い物でしたね。「ホームベーカリー」というその名は以前から何度も聞いたことがありましたが、そうは言っても「自宅でパン」は大変だろ？と今まで見向きもしなかったのです。ところが簡単もカンタン、まさか材料を入れてスイッチを押すだけだとは！その素晴らしさを誰かに伝えるよりも簡単なことでした。そこに新鮮な野菜たっぷり、挽きたてのコーヒーと一緒に並べば、有無を言わず最高の一日の始まりです。

